



歯科診療室だより

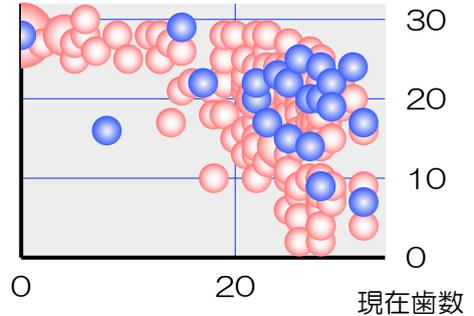
公立みつぎ総合病院

36号

令和6年3月8日

院内学会

“たかが歯科健診されど歯科健診” 2月3日病院内の学会での歯科の発表を分析した結果です。20年間の御調町「歯の日」歯科健診の一部データを右図に示します。青丸は、60歳で歯科健診を受けた人が70歳で再度歯科健診を受けたことを示します。赤丸は70歳で初めて歯科健診を受けた人を示します。図の左側に行くにしたがって歯が喪失していることを示していますが青丸の人は、歯の喪失が少ないことが判ります。10年前に歯科健診を受けて10年後に再度歯科健診を受けている人は、歯の喪失が少なく、“くち”への関心も高く歯科健診を受ける大切さが示された結果となりました。最後に「歯の日」歯科健診に協力して頂いている御調町開業歯科医院の先生方には深謝致します。



フッ素配合歯磨剤 ～その3～

3回シリーズでフッ素配合歯磨剤について4つの学会が推奨する利用方法について書いてきました。是非とも参考にしてください。昔は、下の写真のように沢山歯磨き粉をつけなくてよいと大学の講義で習ったものですが時代は変わるものだと実感しています。

年齢	使用量	フッ化物濃度
6歳～成人・高齢者	1,400～1,500ppmFの 歯磨剤を 歯ブラシ全体 (1.5～2cm)程度	1,000ppmF (日本の製品を踏まえ) (900mF～1 000mF)



【使用方法】

フッ化物配合歯磨剤を利用した歯みがきを、就寝前を含め1日2回行う。

歯みがきの後は、歯磨剤を軽くはき出す。

うがいをする場合は少量の水で1回のみとする。

チタン製歯科材料（インプラントなど）が使用されていても、自分の歯がある場合は、フッ化物配合歯磨剤を使用する。

文責 診療部長 占部秀徳